

平成30年度第2回中央区まちづくり懇話会 実施報告

実施日	平成31年3月11日 15:00～16:30
場 所	くまもと県民交流館パレア10階第8会議室
参加者	懇話会委員16名
議 題	■熊本市からの情報提供 ■平成30年度中央区まちづくり事業の報告 ■平成31年度中央区まちづくり事業について
その他	■委員振返り



熊本市からの情報提供

1 熊本市でも試合が開催される国際スポーツ大会について

■ラグビーワールドカップ2019
2019.09.20 → 2019.11.02



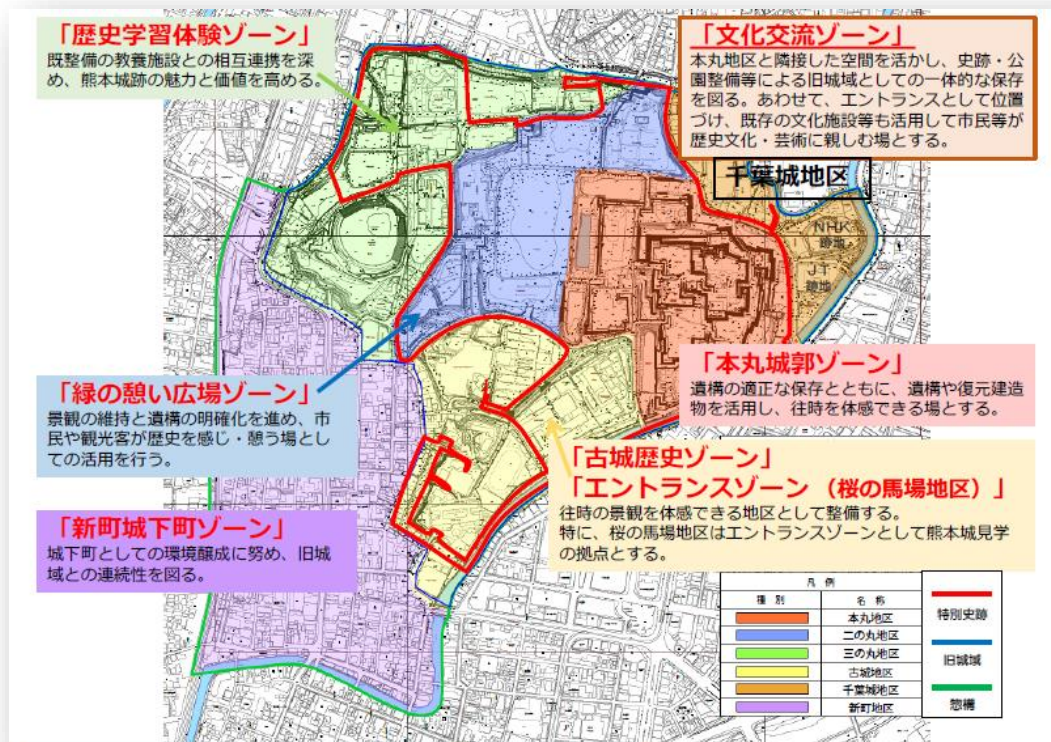
■第24回女子ハンドボール世界選手権大会
2019.11.30 → 2019.12.15



熊本市からの情報提供

2 千葉城地区（J T跡地、NHK跡地）の保存活用について

熊本城調査研究センターから基本構想を説明された。



平成30年度中央区まちづくり事業の報告

中央区総務企画課から平成30年度中央区まちづくり事業（3事業について）報告が行われた。

① 中央区まちづくりスクール事業

中学生が身近な社会課題の解決策を学習できる事業で、将来のまちづくりの「担い手育成」を目的として行ったもの。自ら企画・検討し、プレゼンテーションすることにより、いかに人の心を動かし、どう社会を変えていくのかを体験。

当日は3チームに分かれ、「いじめ」「交通」「勉強」など、普段の生活に密接に関係している課題を自ら考え、様々な議論が行われた。

【委員意見】

学校の勉強だけではなく、将来のまちづくりの担い手になる
というようなことを目的とする事業に魅力を感じた。

今後も、中学生・高校生を対象とした事業を入れてほしい。



平成30年度中央区まちづくり事業の報告

② お互いさまのまちづくり事業

地域包括ケアシステム（高齢者を地域で支える仕組み）を広く普及啓発するため、区関係課職員を対象とした研修会及び、地域住民を対象とした講演会を開催した。

- ① 中央区地域包括ケアシステム職員研修会
平成30年7月20日（金）午後4時～
中央区職員等46名参加
- ② 中央区お互いさまのまちづくり講演会
平成30年10月1日（月）午後2時30分～
自治会長、民生委員・児童委員他157名参加

講師:熊本学園大学社会福祉学部准教授黒木邦弘氏

【委員意見】

講演会は、つながるということがどんなにいいことか、幸せなことかという夢のある話だった。言葉の使い方伝え方が参考になった。



平成30年度中央区まちづくり事業の報告

③ 中央区地域コミュニティづくり支援補助金

地域コミュニティ活動を行う団体が、地域課題の解決や、地域コミュニティの活性化に取り組み、安全で安心して暮らすことのできる、持続可能な自主自立のまちづくりを推進するため、財政的な支援を行うもの。今年度から、今までの補助メニューである「地域課題対応事業」に加え、「地域魅力アップモデル事業」を新設した。

「地域魅力アップモデル事業」は先進的、模範的な事業に取り組む団体の挑戦を支援するため、初年度に補助率を高くし、「初期費用への投資」に対応した。

(※交付申請：13団体 交付決定：7団体)

《取り組み事例》

○地域課題対応事業【託麻原校区社会福祉協議会】

つながろう託麻原～サロン大交流会を通して、新しい機能の構築～

○地域課題対応事業【大江校区第3町内自治会】

住民相互で支えあう自立した防災・防犯まちづくり事業

○地域魅力アップモデル事業【熊本転入ママの会 くまてん】

転入したいまち、永住したいまち、私のまち、僕のまち！！



平成30年度中央区まちづくり事業の報告

【委員質問】

ラインの登録者数は？

【回答】

2万人程度



【委員質問】

中央区コミュニティづくり支援補助金の申請条件や募集期間は？

【回答】

■地域課題対応事業

対象事業：住民の身近な課題を解決するもの

地域における従来の取り組みを発展させるもの

対象団体：校区自治協議会、校区自治協議会の構成団体、町内自治会

■地域魅力アップモデル事業

対象事業：地域活動の負担軽減が図られるもの

生きがいとしての地域活動につながるもの

お互い様で支えあえる地域づくりを進めるもの など

対象団体：校区自治協議会、校区自治協議会の構成団体、町内自治会

地域コミュニティ活動を行う団体（活動区域が主に中央区内で、構成員が5人以上）

■募集期間：平成31年4月～6月末（予定）

平成31年度中央区まちづくり事業について

① 災害公営住宅入居者交流支援事業

目 的：これまでの阪神淡路大震災、東北大震災の災害後における教訓を踏まえて入居者の孤立を防ぐとともに、お互いに支えあえる地域づくりにつなげる。

対象者：現在の計画 大江（託麻原校区）⇒19世帯 南熊本（春竹校区）⇒80世帯

内 容：平成31年度竣工予定の災害公営住宅への入居者同士、また、入居者と近隣住民の関係性を構築するきっかけ作りのための交流流会を開催。

入居前⇒地域情報を盛り込んだ、茶話会を実施予定。

入居後⇒落語、食事会、健康体操などを交えた交流会を実施予定。

【平成31年度中央区まちづくり事業について会長のまとめ】

まちづくりは、人（人材の育成）・物（施設の充実）・事（イベントや事業）といわれる。熊本市の場合は、コミュニティセンターが福祉から出発したため、高齢者の施設というイメージがある。

そうした中に、若い人を含めてコミュニティセンターの魅力づくりのためのWi-Fi整備は、初めは見通しがいいかもしれないが、積極的に仕掛けていくということで進めるといい。

31年度の中央区まちづくり事業は「まちづくり推進経費」「復興支援自治推進経費」からなっている。復興支援、まさに持続可能な地域づくりというのが大きな柱となったということが、次年度につなぐ今年度の私たちの議論であった。

平成31年度中央区まちづくり事業について

② 地域コミュニティセンター災害対応機能強化経費

- 目 的：・これまで、SNSやインターネットなどを活用していなかった高齢者の方々に、日常的にSNSが使える環境を整え、災害時の情報収集・発信機能の強化を図る。
・コミュニティセンターの利用の幅を広げ、より多くの人に活用してもらう機会を創出する。
- 内 容：地域コミュニティセンターにWi-Fiを整備して運用する事業。平成32年度末まで実証実験を行い本市で費用負担を行うが、その後はコミュニティセンターにて効果測定を行い、事業を継続するかどうかを判断してもらう。

【委員意見】

- ・評価はきちんとしてほしい
- ・どれだけ必要とする人がいるか、まず調べて実施しないとったいない。
- ・若者をどうまちづくり参加させるか、若者と高齢者の交流のきっかけをどう作っていくかという課題を解決する手段の一つであると感じた。
- ・Wi-Fiがあって自由に使っていていいということがあれば、若者がコミセンを利用するなど、コミセンの利用者が変わる可能性もある。
- ・いろいろな世代の方に、地域のコミュニティセンターがどんな場所なのか確認いただく きっかけになると思う。

【中央区から】

来年度中、すべての小学校と公設公民館にWi-Fiが設置される予定。(危機管理部門実施)
中央区であえてコミュニティセンターに設置する狙いは、もっと多くの方々に利用してもらい、活用の幅が広がるコミュニティセンターを作っていきたいため。

平成31年度中央区まちづくり事業について

③ 中央区ヘルスアップセミナー

- 目 的：区民の健康増進を図り、生活習慣病予防に関する理解を深め、食事の指導や効果的な運動を通して健康づくりへの意識向上を促す。
- 対象者：糖尿病予備軍（40歳～65歳未満の中央区に在住または居住している者）
糖尿病予防に関心のある方
- 内 容：生活習慣改善を目的とした計3回のセミナーを開催（市政だより等で募集周知）
- 1回目 県立大学教授による「食と健康を考えるワークショップ」
糖尿病専門医による講話、血糖値検査
 - 2回目 運動・食生活健康運動指導士による運動ストレッチの紹介
栄養士による食生活改善講話
 - 3回目 阿蘇ファームランドにて実践型セミナー
自身の健康状態の測定や知識を身につける

【委員質問】

- 1 糖尿病予備軍の方の発見方法、対象を選択する基準。
- 2 セミナーを聴いた後はやる気が出ているが、その後のフォローはあるのか

【回 答】

- 1 今年度「中央区から糖尿病を減らそう事業」を実施している。検査結果が、境界値であった方、健康診断の結果が思わしくなかった人など、広く対象とする。
- 2 問診のご案内を行っている他、すべての講座が終わった後にもう一度受講者に集め、続いているかの確認を行う。

平成31年度中央区まちづくり事業について

④ クラウドファンディング活用型ふるさと納税推進事業

目的：町内会費あるいは行政からの補助金とは別の収入となる選択肢を用意することで、区が目指す自主自立のまちづくりに資する。

内容：「クラウドファンディング」（※1）と「ふるさと納税」（※2）の二つを結びつけ、住民の方や事業者が主体的に取り組もうとしている地域課題の解決について、資金面での支援を行う。

H31年度は、制度化した後に周知のためのセミナー開催を予定している。

※1 通常、不特定多数の人がインターネット経由で、他の人々や組織に財源の提供や協力などを行うこと

※2 寄付金税制を応用して、居住地以外の地方自治体へ税金を移転させるという制度。

【委員質問】

・なぜ、民間事業型なのか。

【回答】

・民間の事業者が事業をすることで、結果的に地域の活性化が図られ、地域課題を解決するという事例がある。事業の内容が、熊本市の抱える地域課題を解決するのにいい方法だと判断した場合は、民間業者も排除することなく受け入れて、地域に還元されていくということにチャレンジをしたいと考えている。

委員の振り返り

- ・校区の運営を行っているが、自主自立のまちづくりにはまだ届いていない。
まちづくり活動に出てこられない人のためにどういったことができるか、継続して悩んでいくのかと思っている。
- ・中央区まちづくりの施策提言に携わることができたことに感謝をしている
- ・変えないことで安心な人もいる。新しいことをするにはエネルギーが必要。
地域で何かをするには、同じ志を持つ人が必要と感じている。
- ・30代だと、子どもを通じて校区に関わる人が多いが、子どもがいないとかかわる機会がない。懇話会のメンバーとなったことで、まちづくりに参画できた。
- ・ICTの整備によって、多くの人が地域に関わることができるようになればと思う。
- ・中央区コミュニティづくり支援補助金を活用して実施された事業で、地域の方と一緒に雑煮をつくり異世代交流を行った。日頃、埋もれている料理上手な高齢者の発見にもつながった。
- ・中央区は先駆的な取り組みが多い。
- ・スマイル防災講座はどの回も面白い。意識の高い方が参加されることが多いので、それ以外の方にも魅力が伝わるように、対象人数を増やしてもらおうとか、広報を積極的にして、もっとたくさん参加してほしい

委員の振り返り

- ・校区の魅力発信事業はその後どうなっているのか？気になっている。「こういうページに進化している。」というような情報共有がされることを期待している。
- ・校区の行事に参加する若い世代の方で、ラインの情報を見てきましたという人が増えていることを実感している。今後も、自治会やコミュニティセンターの情報を発信し続けることによって、まちづくりをよく知らない世代にも伝わっていくのかと思っている。
- ・「マイス」や「アミュプラザ」ができることで中心商店街が、どうなるのか気になっている。中心商店街の回遊性ということでは、NHK・J T跡地がどうなるのか期待している。
- ・まちづくりは人づくり後輩たちにも伝えていきたい。
- ・子育て世代の人は忙しく、なかなかまちづくり活動に参加しづらいという声を聴く。そのような人たちも含めて、どのようにまちづくりを広めていくのか、ラインの活用など、そういうことに切り替えていく必要性を感じている。
- ・今まで回覧版を見ていなかったが、懇話会に参加するなど、地域活動に携わるようになり、回覧板を見るようになった。まちづくり活動を、どのように広げられるかということは今後も課題として持ち、実践に携わっていきたい。
- ・コミュニティづくり支援補助金を活用して、「つながろう託麻原」を実施。住み続けたい町を実現するための高齢者サロンの交流会を行った。顔の見える交流は町内ごとの小さな活動が必要であると感じている。

委員の振り返り

- ・懇話会で得た情報を、英語でホームページを使って情報発信するというようなことをやっている。委員の活動が終わっても、何か協力できればと思っている。
- ・行政が事業を企画することに対する、地域としての意見を出させてもらった。メンバーとなったことで、行政職員との垣根が低くなった。
- ・グループワークなど、ざっくばらんな話し合いの場が意見は言いやすい
- ・地域のまちづくりに協力し、自身も勉強がしたいという思いがあって委員に就任した。自身も、周りの若者も、まちづくりということを認知していない人が多いと思う。今後、まちづくりに関して自分のやるべきことは、周りを巻き込んでいくこと、伝えていくことだと考えている。
- ・懇話会の委員となり、行政が色々と考えまちづくり事業を実施していることを知った。それに答えるために、行政に頼りきりではなく、自分たちができることは自分たちでやるということを決心した。
- ・自身の活動を通して、まつりは人と人のコミュニケーションをとるきっかけとなると感じている。
- ・まちづくりは「皆さんが笑顔で、感動を受けるような形で支えあっていくもの。」と考えている。

委員の振り返り

【会長まとめ】

H24年4月に熊本市政令指定都市となり、1年間試行錯誤を重ね、H25年4月に「中央区まちづくり懇話会」ができた。

第1期（H25年～26年）は、区が初めて登場したという戸惑いがあり、行政機構としてだけではなく、私たちの身近な地域としてどのような機能を果たしていくのか、また、新たにまちづくり実践のノウハウをどう作っていくかが問われていたように考えている。

2期目からは、大学生や高校生など、対象者を広くしていこうという動きとなった。大学が多いことなど、中央区の資源を生かさなければならないという意識が共有されたものである。

3期目は、「まちづくりスクール事業」が大きな成果だったと感じている。色々な事業がある中で、自身の関心のある部分でもある。

中学生は地域とのつながりが希薄になりがち。また、自尊感情がさがる年代でもある。そういった時を、周りの地域の人が支えるという仕組みを作っていく。

ESD（持続可能な社会づくりの担い手を育む教育）という言葉があるが、自分で選択し責任を負う子どもを作る、そういうことを目指すためにもこの事業を拡大してほしい。

それぞれの期で目指したものの、そのためにどういう事業を組み立てていくか、どういう成果が残ったのか、そういった点検作業は丁寧にできたのかと考えている。

委員の皆様にお礼を申し上げるとともに、これを支えていただいた区の事務局の皆さんに敬意を表します。

中央区まちづくり懇話会第3期メンバー



お疲れさまでした。